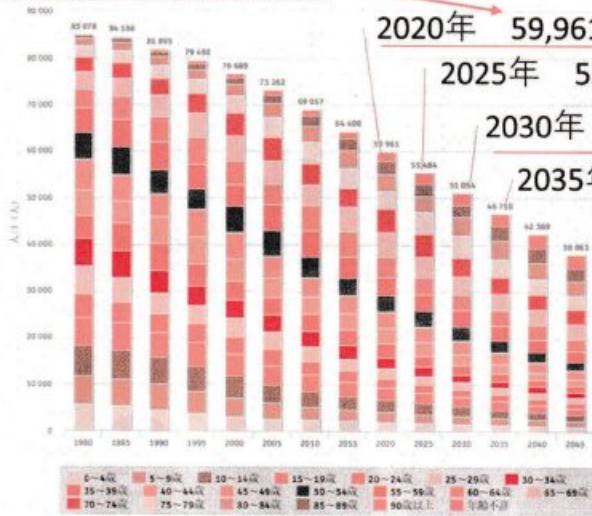


はじめに……

# 八女市の人口推移

でも実際は…62,766人(1月末)

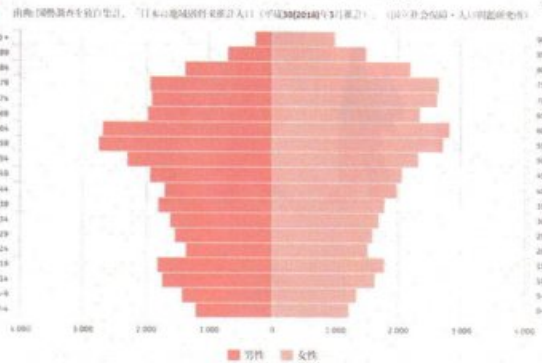


年少人口 10.5% 6451人  
 生産年齢人口 52.7% 32237人  
 老年人口 36.8% 22512人

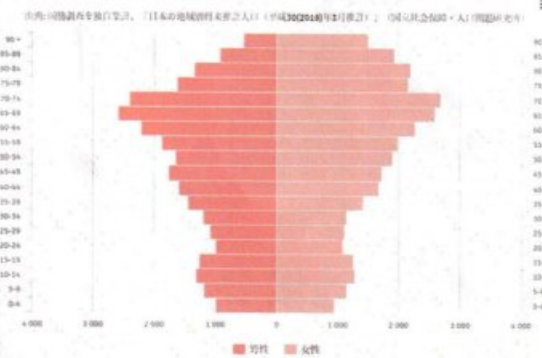
年少人口 9.4% 5012人  
 生産年齢人口 50.3% 26784人  
 老年人口 40.3% 21424人

そして現在…  
 2022年10月末  
 60,875人

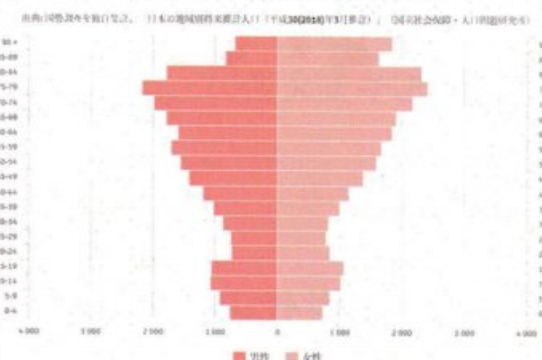
## 2010年人口ピラミッド



## 2020年人口ピラミッド



## 2030年人口ピラミッド



予想 国立社会保障・人口問題研究所 (2018年3月推計)

WIN! 八女人



大切なのは……

# 「きょういく」と「きょうよう」



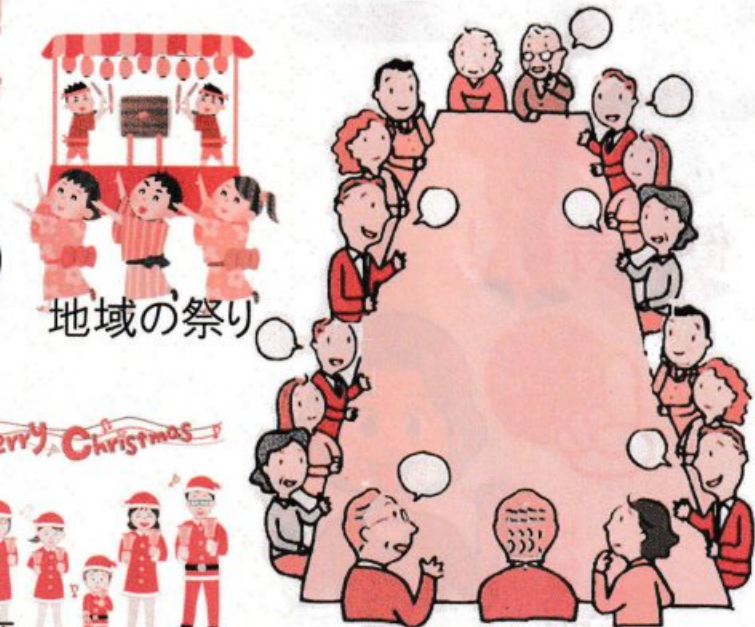
防災の地域づくり



見守りや支え合い

大切なのは……

# 「地域での話し合い」

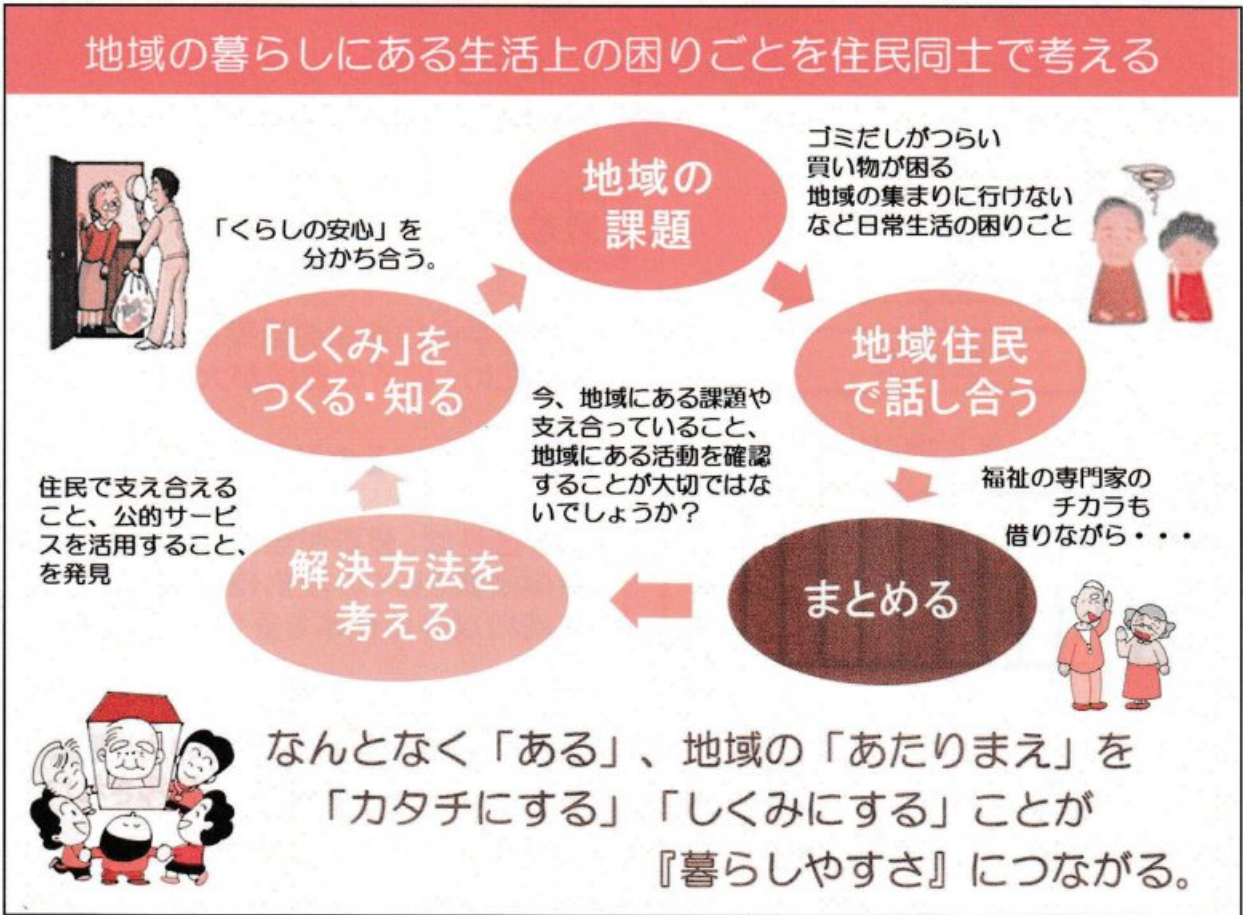


地域の祭り

などなど…



多世代の交流



**地域にはいろいろな困りごとや考え方がある。  
でもこれって、どうにかかなりそうなんじゃないかな？**

予算はあるが、それで  
何をしたらよいか困る。  
事業もマンネリ化してきている。

農業がなくなってきた。  
ご先祖から受け継いだ田畑で  
放置するのつらい。  
誰かに任せたい。

ボランティアみたいなこと  
をしてもいいのだけど、  
どうやってしたらいいか  
わからない。

高齢者だけでやれていた  
地域の活動が、参加できる  
方が減りできなくなってきた。

子ども会行事で  
やりたいことがある  
けれど予算がない。

妻が亡くなり、地域との  
交流は苦手でしていいない  
が、畑仕事が生きがいで  
毎日畑に行っている。

「星野3区自治会（行政区）」の組織再編①  
～ 以前の体制と課題 ～

以前の体制



※星野3区では、これらの課題に対し、平成25年度に1年間かけて協議し、組織の再編を図られました。

課題

- ・役員を中心に地域の活動を企画・運営するため、**役員の負担が大きい**
- ・活動に参加するのがおよそ**同じメンバー**
- ・行政区長は、星野村全体の様々な委員会の委員としての役割(あて職)があり、地域内以外の仕事も多く、**負担が大きい**
- ・役員に女性がおらず、**女性の力(発想・気配り含む)が地域活動で発揮されにくい**

など

「星野3区自治会（行政区）」の組織再編②  
～ 住民の誰もが活動に関わる体制づくり ～

再編後の体制



※13隣組の数は変えず、5つのグループを形成(世帯数などを勘案し分けた)

※各グループより地域委員を選出(男女1名ずつ。2名×5グループ=10名)

※自治会の様々な活動の担当部会(4つ)を作り、グループで担当する。環境部が2グループ、他は1グループずつ。2年間が1クール。輪番で担当部会は変わる。

- ①教育文化部は、風流はんや舞など
- ②福祉部は、敬老会など
- ③交流部は、グラウンドゴルフやバスハイクなど
- ④環境部は、不燃ゴミの分別回収や廃品回収など

## 「避難する」ということについて地域で考える ①

**避難に躊躇する要因**

- 避難のタイミングが分からない
- 避難所の様子が分からない
- 避難者多い?
- 避難経路は大丈夫?

自分一人で避難するのは不安 (判断できない)

## 「避難する」ということについて地域で考える ②

**どこに避難するのかを住民に(事前に)知らせる**

指定避難所

自主避難所

**誰か(支援者)誰を(要保護者)見守っているかを知らせる**

誰か(支援者)

誰を(要保護者)

**避難の声かけを行う一括に避難する**

要保護者だけで判断しなく  
ていりようにする。

●避難のタイミングが分かる

●避難所やそこまでの経路の  
様子を伝える

避難に必要な準備の声かけ

「誰かしてはいないかを調べる」という視点での避難行動支援。

- 避難所に来た人を調べるのではなく、来ていない人がどこにいるのか確認する。
- ※全住民の安全確認が必要
- ※もちろん、避難所利用者も記録される。

市民館を開放しておく

指定避難所 (公民館)

市の避難所開設を待つのではなく、地域常に開放し、地域の防災活動や住民の自主避難のタイミングにも対応できざるようにしておく

## 「住民の命をどう守るのか」を地域が考える ～ 過疎化や高齢化の課題がある中でどうするか ～

高齢者しかいない地域 (避難支援ができる方が近くにいない)

救助

自宅に留まる

地域では「誰が避難できて」「誰が避難できないか」を把握する必要がある

避難所

高齢者のみしかいない地域では、「自宅に留まり、救助を待つ」という声かけをしている地域もある

## 避難行動における声かけと支援 (誰が誰を！)

九州北部豪雨災害を経験し、星野村の各地域でそれぞれに合った防災体制のしくみが検討されました。

どなた方に支援が必要？

誰が誰を支援する？

近所の支援者や隣組長が担う地域

地域の自警団が担う地域

自主防災

### 防災活動を行う地域のために 一般の住民のひとり一人ができること

避難行動要支援者  
であっても

**子ども宅へ  
施設へ  
ショートステイ**

**避難先を伝えておく**  
※誰が見守ってくれているかを知っておく  
(その方に伝える)

**避難する準備と心構え**  
※多くに避難できるようしとぞおく

**地域の防災活動を遅延なく  
行わせることが  
「地域のため」になり  
「住民の命」として「自分の命」を  
守ることになる。**

### 地域の中で、相談支援機関で、よくあること

ご近所さんの誰もが知っていること

**地域では・・・**  
 情報がある  
助けあいもある  
 本人や家族、民生委員  
や地域の方、その他からの相談  
また、訪問活動などから  
知り得たことから  
相談支援が始まる  
でも、入らない情報も  
たくさんあると考えられる

**個別の課題、地域の課題を  
把握できていないものもある**

**課題解決の  
方法が分からない**

「個別の困りごと」を「地域の課題」とは  
捉えられていない(個人の課題、家族の問題)  
楽になる方、助かる方も増える。

### 行政区長や民生委員・児童委員の交代と 防災のしくみの風化を止める必要性

地域の防災訓練所や  
避難所(自主避難所含む)

定期的な会議や打ち合わせ  
※その機会を作る

連携  
役割分担  
や  
情報交換

交代  
行政区長の任期(交代期)

交代  
民生委員・児童委員

交代  
行政区長

交代  
民生委員・児童委員

引継ぎ  
引継ぎ  
引継ぎ

地域活動の活性化と住民の「健康」元氣への  
取り組みは同じ

### 「社会参加が介護予防になる」 という考え方は 地域づくりの追い風 でもある

これからの介護予防  
対象 すべての高齢者  
目指すもの 社会参加  
目指すもの 居場所・つどいの場・支え合い

例えば・・・

**課題**  
地域行事や活動の  
参加者が少ない。  
いつも同じメンバー。  
地域行事や活動を  
進める役員負担  
が大きい

**目標**  
参加者を増やす  
これまで参加されて  
いない方を巻き込む  
地域活動に困って  
いたの方を助ける

**工夫**  
「参加」を意識した  
ちよっとした工夫  
参加しやすい  
組織・活動  
新しい人材探し  
一つひとつの場の役割を  
明らかにし、誰でも参加できる  
仕組みづくり  
多世代の交流  
子ども会、老人クラブなど、異なる地域団  
体の活動をつなぐ代、互いが助け合える仕組みが、

## 保健事業コーディネーターさんからの話を聞いて「健康」を意識しよう ～吹春サロン～



八女市立花町の「ふれあいサロン活動レポート」です。今回は、迎春地区の「吹春サロン」におじゃましました。

吹春公民館でほぼ毎月開催されている「吹春サロン」。毎回 20 名程度の吹春区の高齢者の方々が参加されています。参加者の方に伺うと、「サロンば楽しみにしとるとやん」「みんなでおれるのがよか」「楽しかよ。あなたもおいで」ととにかく明るい。そして、みんなおしゃれ。



今回は、八女市の保健事業コーディネーターさんを招かれての健康体操、そして血圧や身体測定、健診の情報や健康についてお話を聞かれました。参加者の方々は、健康体操もしっかりされて、測定を待つ時間もおしゃべりを楽しまれ、気になることを保健師の方に相談されるなど、とても積極的で元気いっぱい。「元気でおらやん」「健康は大事よ」と、次回のサロンも保健事業コーディネーターさんに来てもらい「健診結果の見方」を学ばれるそうです。

休憩の後、八女市社協からレンタルした「スカットボール」を楽しみました。吹春サロンでは、この「スカットボール」が参加者に好評で、恒例になっているのだとか。2チームに分けての対抗戦は大変盛り上がっていました。また、穴にボールが入らなかった方も再トライがあつて、このような誰でも楽しめる独自ルールがあるのもいい。

※八女市社会福祉協議会では、サロン等に対するレクリエーション道具のレンタルも行っています。お気軽にご相談ください。



吹春サロンは、参加すると元気になる健康意識の高いサロンでした。

また、吹春サロンのサロン開催案内は、LINE と手書きのチラシのハイブリッド。「日にちの変更や内容を知らせる時、文字情報の方が伝わりやすい。」「サロン支援者も高齢になってきたので、すべての参加者にチラシを配布するのは大変。LINE が便利なんです。」「でも、LINE をやっていない方や対面で声をかけた方がいい方には、チラシ配布の方がいいんです。」と、参加者への個別の配慮や高齢社会の実情に合わせた周知方法は、私たちが参考になりました。

八女市社会福祉協議会では、高齢者ふれあいサロン活動や通いの場を推進しています。活動の方法や内容の検討など、お困りのことがありましたらお気軽にご相談ください。

## どうつながる・どうつなげる ～兼松団地福祉ネットワーク推進委員会～



9月2日(金)、兼松団地公民館で兼松団地福祉ネットワーク推進委員会が開催されました。また、併せて「福祉委員研修」も行いました。



毎月、立花校区行政区長会後に兼松団地の役員で情報伝達・意見交換の場を作られていますが、今回の会議を「福祉ネットワーク推進委員会」と位置づけ、福祉委員の研修並びに福祉的な部分の意見交換が行われました。

兼松団地には、5名の福祉委員がいらっしゃいます。福祉委員は各棟の隣組長が兼務する形で設置されており、普段からの文書の配布や取りまとめ、そして声かけをされています。兼松団地は建設された年代が棟によって異なるため、年齢層にもそれぞれの棟によって特色があるそうです。年配の方が多く住まれている棟では、ごみ出しのお手伝いを住民同士でされているところもあるそうです。

また、防災計画の話にもなり、これまでの計画をアップデートされるとのこと。八女市では、地域に防災士を設置することが進められていますが、兼松団地の自警団にはすでに防災士が設置されているようで、防災に対する意識の高さもうかがえました。

移動手段については、家族の誰かが車の運転ができることで自家用車での移動が多かったのですが、高齢者のみの世帯などではタクシーや乗り合いタクシーを利用される方もいるそうです。年金生活の方などは移動にかかる費用の負担が大きいとの声を聞いたとの福祉委員の話もありました。

住民同士がつながるための試みを模索されている話をお伺いしながら、今後も意見交換や活動の場面に社協も関わらせていただくこととなりました。だれもが暮らしやすい兼松団地になるよう住民の皆さんと一緒に考え、取り組んでいけたらと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

八女市社会福祉協議会では、これからの地域づくりを住民の皆さんと一緒に考えます。「福祉部会」や「福祉ネットワーク推進委員会」を開催される際には、どうぞお気軽にお声かけください。よろしくお願いいたします。



【お問い合わせ】 八女市社会福祉協議会 立花支所 37-0036

## 中島区のサロンを軸とした見守り活動 ～中島区福祉委員研修～



9月15日(木)、中島区公民館で中島区の福祉委員研修を行いました。

中島区では5名の福祉委員が活動され、日頃の気になる方への見守り活動やサロン運営(中島かたろう会)などをされています。

今回の福祉委員研修では、福祉委員と行政区長に参加いただき、福祉委員のてびきをもとに福祉委員の4つの役割「見つける」「知らせる」「つながる」「広める」や見守り活動のポイントなどを確認しました。

また、中島区のサロン「中島かたろう会」のことも話題になりました。

平成19年7月に発足した中島かたろう会。発足時、参加希望者が多く、当時の古い公民館に入りきらないことを心配され、月2回の開催として利用者を分けることを考えられましたが、特技や好きなことを活かして誰もがサロンの「先生」になるみんなが主役の取り組みや、歌や体操、レクリエーションなどが参加者の皆さまに好評で、結局どちらの開催日にも来られるといううれしい悩みを抱えていらっしゃいました。公民館も建て替わり、誰もが使いやすいフラットな公民館でさらにサロン活動が盛り上がり、他の市町村のサロンなどからも多く視察に来られるサロンでした。

それから15年の歳月が経った今、以前から比べると参加者も減りましたが、誰もが主役になれる雰囲気はそのままに、毎月2回行われる中島かたろう会はアットホームで円熟味のあるサロンとして活動されています。

「誰もが歳を重ねていくので『支える者』も『支えられる』も区別がなくなる。」「お互いの『できること』で『できないこと』を助け合う。それが大事。」「できるうちは、福祉委員もサロンも続けたい。役割があることがうれしい。」



八女市社会福祉協議会立花支所では、各地区にお伺いして福祉委員研修を行っています。地域で「福祉委員の設置」や「研修」を検討される時は、どうぞお気軽にお声かけください。よろしくお祈りします。

## 災害時の支援体制を平時の見守りにつなげる

### ～北山1区福祉ネットワーク推進委員会～



9月7日(水)、西原公民館で北山1区福祉ネットワーク推進委員会が開催されました。また、併せて「福祉委員研修」も行いました。

今回の北山1区福祉ネットワーク推進委員会は、行政区長、福祉委員(自治会長:区長)、民生委員児童委員というメンバー。はじめに福祉委員研修を参加者全員に受けていただき、福祉委員の役割や活動について理解を深めていただきました。

研修後は、地域での取り組みについての協議。大雨時の災害に見舞われることが多くある北山1区では、行政区長や自治会長、民生委員児童委員で話し合い、災害時の避難行動に支援が必要な方を本人の了承を得て共有されています。

特徴的なのは、災害時に支援が必要な方々に対して、平時からの見守り活動にも連動されるしくみであることです。日常の生活の中での見守り活動により、要支援者との信頼関係も構築されており、相談や情報を受けやすくなったり、いざという時の声かけに対しても受け入れていただきやすくなっています。そして、福祉ネットワーク推進委員会での情報共有や意見交換は、このような見守りのしくみの強化にもなっています。

また、北山1区の山下区では、災害時の体制として、川の水位を見て避難行動の声かけや把握を発動する約束ごとや隣組単位で活動し区長へ情報を集めるしくみなどを作っています。今回は、その他の区の協力の仕方なども確認されました。

そのほか、北山地区及び北山1区の行事の確認や役員選考の方法についても情報共有がされました。高齢化や人口減少などにより、持続可能な活動を行うためには行事や役員選考なども工夫が必要です。現状の取り組みを確認しながら、その方法についても協議が行われました。



地域の取り組みを福祉的な視点で協議する場である福祉ネットワーク推進委員会。北山1区では、この会議を活用して、災害時だけでなく普段からの見守り活動の強化が行われていました。

## 住民の協議から生まれた買い物弱者対策～迎春地域振興会議&グリーンコープ～



八女市立花町の迎春地区は、熊本県と隣接する国道3号線沿いにある中山間地域。高齢化率52.04%(令和4年3月31日現在)と高齢化の進む地域で、生活必需品や食料等を購入できる商店がなく(「道の駅たちばな」のみ)、平成26年3月に策定された迎春地域振興計画におけるアンケート調査でも「日常の買い物が不便」との回答が27%あるなど、地域でも買い物支援の必要性の声が上げられていました。

迎春地域振興会議(まちづくり協議会)では、他の市町村で実施されている買い物支援の先進地視察(移動販売など)や住民の買い物状況を示すマップづくりなど、役員会を中心に協議を重ねてこられました。特に令和2年度からは、行政や地域包括支援センター、社協(生活支援コーディネーター)も協議に参加し、地元による協議を支援する体制も作られました。



今年の7月には迎春地域振興会議で独自アンケートを作成され、行政区長や民生委員の協力により迎春地区の住民アンケートが実施されました。このことがきっかけで迎春地域振興会議とグリーンコープとの協議が進み、公民館でのグリーンコープによる出張店舗が企画されました。まずはアンケートで希望のあった2地域からスタートすることになり、10/15(土)に実施されました。

10/15(土)当日は、多くの住民の方が買い物に来られ、売り切れる商品がいくつもあったほど大きな反響がありました。「地元で買い物できるのはうれしい」「次は、いつ来っとの?」「今度は〇〇がほしい」と皆さん買い物を楽しんでいました。今後もこの2地域では、第3土曜日に出張店舗が開かれる予定です。また、同日に開催された「旧上迎春小学校開放イベント～コミュニティスペース～」(主催:へばる未来企画)の会場でもこの出張店舗が行われました。

この出張店舗が少しずつでも迎春地区の地域に広がり、迎春地区の買い物弱者支援の大きな一つになっていくことと思います。

※現在は、迎春5区(江後区・松尾区)の開催回数を増やすことや迎春4区(上小原区・黒岩区)での新規開催が検討されています。



## あいことばは「ちちんぷいぷい」～立花地区子どもの居場所づくり事業～



働く女性の家(八女市立花公民館)×八女市社会福祉協議会ではこどもたちの学び・遊びを支援しています。

こどもたちが、放課後や休日に、自由に集まって、思い思いに過ごしたり、遊んだりできる場所を地域の中で提供したいとの想いで、ロビーに専用スペースを設けたり、図書室でゆっくり読書ができるような環境作りを行っています。今回は、このこどもたちの居場所を応援したいとの想いで、ボランティアのお申し出をいただきました野口絹江さんを紹介したいと思います。

野口絹江さんは、南京玉すだれ・踊り・手話ダンス・マジック・ストレッチなどの多彩な特技を生かし、ふれあいサロンのボランティアをはじめとして、八女市内の様々なイベントでご活躍をされています。

そんな野口さんですが、10月から働く女性の家で、不定期で見守り活動を行いながらマジックを披露していただけることとなりました。野口さんの披露するマジックに子どもたちは「すげーどうなるとと!?!」「おしえて!おしえて!」と興味津々。



働く女性の家で、野口さんを見かけることができれば超ラッキー♡あいことばの「ちちんぷいぷい」の呪文を唱えると素敵な出会いがあること間違いなしです。

ぜひとも子どもたちの居場所働く女性の家(八女市立花公民館)にお越しください。



八女市社会福祉協議会立花支所  
ホームページ



立花総合保健福祉センターかがき  
ホームページ

《ある地域の活動から①

～地域における協議の場（福祉の視点から地域づくりを考える）～ 》

地域づくりを福祉の視点から考える「地域における協議の場」として、地域振興会単位で協議する「福祉部会」や行政区単位で協議する「福祉ネットワーク推進委員会」を八女市社会福祉協議会では推進しています。立花町の各地区でこのような協議が行われています。



《ある地域の活動から②

～誰もがいつまでも地域で暮らせるために（公民館に車いすを設置）～ 》

北山2区福祉ネットワーク推進委員会では、災害などいざという時の避難時に使用するための備えとして、また、地域の方が一時的に車椅子を必要する時に使用していただくことを目的に、行政区内の各公民館に車椅子を設置されました。「車椅子を各地区で貸し出すことは、負傷している方や介護の必要性などが見込まれる方の情報を民生委員も含めた福祉ネットワーク推進委員会のメンバーの中で共有することができる」



《ある地域の活動から③

～高齢者の熱中症対策と居場所づくり～ 》

ある地域では、区内の高齢者の複数名が暑い夏場でも自宅のエアコンを利用しておらず、熱中症が心配されました。このことを区の役員で協議し、日時を決めて、エアコンの効いた公民館を高齢者に開放し、涼を取って過ごされるようにされました。公民館のカギを開け、地域の高齢者に周知するだけで、高齢者の居場所ができたそうです。

《ある地域の活動から④ ～地域活動の情報（ホームページや地域新聞）～》

北山地区地域振興会議では、地域住民の方や出身者、その他の多くの方々にホームページや地域新聞等を活用し、地域の活動の情報発信をされています。



《ある地域の活動から⑤ ～地域の中の買い物課題を「我がごと」として考える～》

辺春地区では、高齢者等の買い物の課題について、辺春地区の民生委員児童委員らで「買い物マップ作成ワークショップ」を開催し、地域のお店や住民の買い物状況などを確認されました。



《ある地域の活動から⑥ ～乗合タクシーを使って高齢者ふれあいサロン～》

高齢者ふれあいサロンの会場となる公民館までの移動手段がない方が参加したくても参加できないというケースもある。星野村のある地域では、そのような方の移動手段で「乗り合いタクシー」を活用されている地域もある。



《ある地域の活動から⑦ ～地域で取組む「ごみ出し支援」～》

事例① 地域住民の高齢化や過疎化から、将来的に住民の中で「ごみ出し」に困られる方が出てくるだろうことをイメージされ(すでに数名が困られていた)、燃えるゴミと資源ごみに対して、地域の中で支援者を決め、ごみ出し支援の仕組みを作られている。



事例② ある集落の一部の地域で指定の資源ごみ回収場所まで資源ごみを持っていくことが難しいという方ばかりいるところがあった。役員会で話し合い、指定の資源ゴミ回収場所以外にその地域に出張回収所を設置。また、担当者を決めて、その地域の住民宅を訪問し、資源ごみを運ばない方のお手伝いをしている。

《ある地域の活動から⑧ ～健康ウォーキング&福祉のつどい～》

以前まで地区全体で「運動会」をされていましたが、住民の高齢化や準備における役員の負担などから運動会を「健康ウォーキング」に変更し、住民交流が続けられています。最近では、このイベントに福祉の視点を取り入れられ(福祉のつどい)、福祉教材の配布とユニバーサルデザインを確認しながらまちを歩くことも行われました。



《ある地域の活動から⑨ ～子ども会と老人クラブ合同のラジオ体操～ 》



小学生の夏休み期間に行われる子ども会のラジオ体操。ある地域では、集合時間に遅れたり、眠そうにダラダラと体操をしている子どもたちの姿を見て、保護者の方が老人クラブの方に相談された。老人クラブの方は、老人クラブの会員に声をかけ、子どもたちと一緒にラジオ体操をすることになった。

大人たちと一緒に子どもたちがラジオ体操をすることで、集合時間に遅れず、楽しみながらきちんと取り組むようになった。高齢者の方も、自身の健康づくりにもなり、孫やひ孫世代の子どもたちとの時間を楽しまれることで、日頃の老人クラブの活気もでてきた。

《ある地域の活動から⑩ ～交流イベント&福祉のつどい～ 》

地区で開催される交流イベントに組み合わせて「福祉のつどい」を実施。車椅子の体験や高齢者疑似体験、レクリエーション道具を使ったレクリエーション体験が行われた。このイベントには地域の介護事業所・施設に協力を依頼し、車椅子の体験や高齢者疑似体験のブースを担当いただいた。地域の介護事業所・施設も、地域に根差した活動を目指されており、地域との交流の機会を前向きに捉えられている。

また、地域の消防団も参加。八女市の操法大会の時期と合ったこともあり、ポンプ操法の実演をされるなど、消防団の活動の紹介もされていました。

